

【令和7年度】とうきょう　すくわくプログラム活動報告書						
				施設番号	66-1169	
				施設名	渋谷東ちとせ保育園	
				施設所在地	東京都渋谷区東4丁目7-8	
				法人名	社会福祉法人ちとせ交友会	
1. 活動のテーマ						
＜テーマ＞						
「食育」 日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜を主役にした「食育」をテーマとして設定した。						
＜テーマの設定理由＞						
(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 五感が発達している未就学の時期に「食」に関する知識をつけ、農業が持つ教育的な価値に目を向けて、様々な体験を得てもらいたい。 土や野菜に触れた時の感覚や香り、生き物、植物など、食べているだけでは気付けない野菜の不思議、自然のパワーを問いとして設定することで、「こんなの初めて見た」と「もっと知りたい(触りたい)」という子ども達の知的好奇心を育みたいと考えたため。						
2. 活動スケジュール						
2025/5/15　リモート畑ツアー：さつまいもの植付、季節のお野菜などを見る 2025/10/30　畑ツアー：さつまいもの収穫&畑探検 2026/3/19　リモート畑ツアー：季節のお野菜などを見る						
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定						
リモート畑ツアー：電子黒板						
畑ツアー：バス						
4. 探究活動の実践						
＜活動の内容＞						

さつまいもの植え付け時や3月など、異なる季節にリモート中継を結ぶことで、四季折々で変化する畑の様子や、スーパーでは見ることができない「野菜本来の育つ姿」を間近に観察した。
また、農家さんと直接お話をすることで、年間を通してどのように野菜を育てているのか、その大切なお仕事について知る機会となった。
画面越しに学んだ後、中継に登場した本物のお野菜を実際に園へ届けてもらう環境を整えた。
届いた野菜を目で見て、手で触って、匂いを嗅いで、そして給食などで実際に食べるというプロセスを通じ、「見るだけ」で終わらない五感をフルに活用した探究活動を展開した。

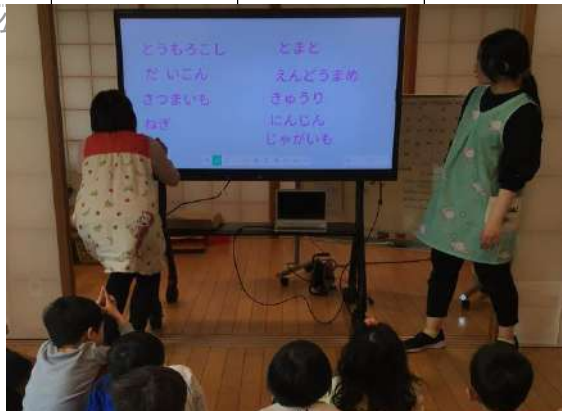
10月、農家さんの協力のもと実際の畑へ向かい、さつまいもの収穫体験を行った。
土や虫を怖がる姿や、収穫の進め方には子どもによって個人差が見られたが、それぞれが自分なりの楽しみ方を見つけて自然体で畑の時間を過ごすことができていた。
収穫後も広大な畑を探索し、普段の生活では触れられない自然の豊かさに触れた。
昼食時には畑でお弁当を食べ、土の匂いや風をダイレクトに感じながら、自然の中で「美味しいものを食べる喜び」を全身で味わう貴重な体験となった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

継続的な活動を通じ、子どもたちが野菜を単なる食べ物ではなく、農家さんの手で大切に育てられたもの



ださい。（HPなどで



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

今年度はリモート畑ツアーと実際の畑ツアーを組み合わせることで、都会の日常の中にあっても、四季折々の自然や野菜の本来の姿を五感で感じる貴重な機会となった。連絡アプリでのリアルタイムな写真配信やInstagram、園だよりを通じた発信に対し、保護者からも「子どもが家で農家さんや野菜の話を嬉しそうにしてくれる」「届いた野菜の話を楽しそうに教えてくれた」という反響があり、園での実体験に伴う学びが家庭へ豊かに広がっていく手応えを感じた。特に、画面で見た野菜が実際に園に届き、それを見て、触って、味わうという現物でのアプローチは、言葉だけでは伝えきれない自然の恵みや食への感謝を、子どもたちが直感的に理解する大きな助けとなった。

リモート中継とリアルな収穫体験を融合させたことで、職員に過度な負担をかけることなく、保育内容の質を飛躍的に高めることができた。また、異なる季節に活動を継続したことで、子どもたちが野菜の育ち方や農家さんの仕事への関心を深め、単なる一過性の「芋掘りイベント」で終わらせない「継続的な探究活動」の重要性を再認識するきっかけとなった。